

若者を考える、若者と考える

# YOUTH SERVICE

VOL. 32  
若者と支援者をつなぐ広報誌

YOUTH SERVICE VOL. 32  
2018年12月1日発行



特集

## 若者×つながる

# 自転車に乗る人を、 幸せな人へ。

京都のまちを、健康づくりが楽しめるまちにするために。  
京都市では、自転車に乗って健康を大切にする  
市民の方を「いきいきポイント」で応援。  
自転車に乗るほど、特典の当たるチャンスが増えます。



**健康長寿のまち・京都  
いきいきポイント**

- 「いきいきポイント手帳」か、「いきいきアプリ」をゲットする。
- 自転車に乗って健康ポイントを貯める!
- 貯めたポイントで応募する! **1/28**
- 抽選でプレゼントをもらう!

選べる豪華な特典が、抽選で約2,200名様に当たる! **例えば**

**1名様**



JTB旅行券 (50,000円分)

**1名様**



電動アシスト自転車 (20インチ)

**30名様**



餃子の王将 お食事券 (3,000円分)

「私に限って  
自転車事故とかありえへん」  
その考えが、ありえへん

**自転車保険義務化**  
詳しくは  
ぎょうと自転車保険専用コールセンター  
TEL.0570-001-382  
**12/1 保険更新ズミ**

「いきいきアプリ」の  
ダウンロードは  
こちら!





自転車での健康づくりについてのお問合せ  
京都市建設局自転車政策推進室 ☎ 075-222-3565

いきいきポイントについてのお問合せ  
京都市保健福祉局健康長寿企画課 ☎ 075-222-3419

## おち・メッセージ



京都精華大学  
非常勤講師  
あかたちかこ

2003年に『みさやまミーティング(※)』をやらせていただいたから、京都市ユースサービス協会には時々お世話になっています。最近、大学や児童自立支援施設などに入りし、幅広く思春期の人たちを見ながら、援助とは何か、ユースサービスとは何か、ずっと考えています。わたしの本職である性教育は、対象の年齢とともに「正しいことを教える」という段階から「お互いの価値観について話し合う」という段階に進んでいきます。

子どもも思春期になると、それぞれの背景と行動様式があり、本人の「どうなれば幸せか」という考え自体多様で、柔軟に考え、丁寧に話し合って援助しないと、良い結果は望めません。

あなたも援助業界の方ですか？ 今やどこの現場も厳しいですが、それぞれの場所でうまく機嫌良くやっていきましょうね。いつだって、被援助者と、そして仲間と、細かなことから大きなことまで、話し合う余裕を保てるように。わたしたちの力は、そこに生まれるのではないのでしょうか。

※若者が、ピア=仲間として、同世代の仲間と「セクシュアルヘルス」について共に考え、伝える活動を行う「ピアエデュケーター」を養成する講座

イラスト:おおつかかな

## contents

- 4 特集  
若者×つながる  
～SNSから見えるもの～
- 8 高校生が作ったページ  
高校生が「18歳選挙権」  
について考える
- 10 TOPICS  
京都市ユースサービス協会の  
記念日づくし
- 12 シリーズ  
はたらく若者
- 14 ユースかわら版  
「海外研修報告」ほか

### ユースサービスの理念

子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援しています。

家庭、学校、地域社会、職場ほか、青少年が自主的な活動場面への参加を通じて、社会と交わり、自身の興味や関心を豊かにし、必要に応じて、助言、情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。

## 12月は 寄付月間!

「寄付月間」とは、寄付の受け手側が寄付者に感謝し、寄付者への報告内容を改善するきっかけとなること、また多くの人が寄付の大切さと役割について考え、寄付に関心を寄せ、行動をするきっかけとなることを目指した月間です。

京都市ユースサービス協会でも多くのご支援・ご寄付をいただいております。

2018年11月まで 484,000円

いただいたご寄付については、当協会の取り組みに活用させていただきます。また、寄付だけでなく、当協会の事業や施設運営にも日ごろから大きくご協力いただいております。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

# 第一学院独自のプラスサイクル指導で 自分を好きになる、未来が変わる!



友達がたくさんできる環境だから、学校が楽しくなった!先輩・後輩の壁もなく、みんな仲良し!

自分のレベルに合った学習ができるから、どんどん意欲がわいてくる!

「ここまで変われるとは思わなかった」と感じるほど明るい自分になれる♪自分に自信が持てるようになったよ!

中3生  
対象

## オープンスクール&学校説明会 12/8(土)

※要電話予約。上記以外でもご相談は随時受け付けています。

転校  
編入

## 後期入学受付中!

### 自分に合ったスクールライフ

通学型

- 週5日通って高校生活を満喫
- 週1~3日マイペースに登校

通信型

- 時間や場所を選ばず学ぶ

- Mobile HighSchool -

### 仲間ができる!笑顔が増える!



心強い仲間たち  
(ピアサポーター)

様々なサークル・イベント

### 自分に合った学習

- 中学校の復習から大学受験対策まで
- 進路対策も万全(進学・就職)

### タブレット端末を活用した学習

ICT教育の推進による  
学習意欲の向上  
学力の定着

### プロから学ぶ!「チャレンジレッスン」

業界の第一線で活躍している方の授業も!

アニメ・イラスト・デザイン

ファッション・美容

ダンス・音楽

ゲーム

ほかにも、【ブライダル系】【ペット系】【スポーツ系】【保育・福祉系】など講座がたくさん!

### 進路決定へのこだわり~2018年 進路実績~

大学等進学者 593名 専門学校等進学者 590名 就職者 372名

高卒認定合格を目指すコースもあります

高認取得通信コース ●高認受験と単位修得で短期間で高卒資格を取得

※必ず1科目は高卒認定試験を受験し、合格する必要があります。



通信制高校(広域通信・単位制)

京都キャンパス

〒600-8418 京都府京都市下京区烏丸通松原下  
五条烏丸町407-2 烏丸K T第2ビル5F

— 京都市営地下鉄「五条」駅①番出口徒歩2分(京都駅より1駅) —

まずはお気軽にお問合せ下さい。

TEL 075-371-3007

全国50キャンパス(2018年4月時点)



www.daiichigakuin.ed.jp 第一学院高校 検索

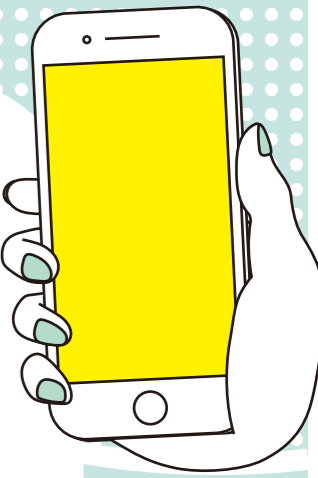
# 若者 × つながる

～SNSから見えるもの～

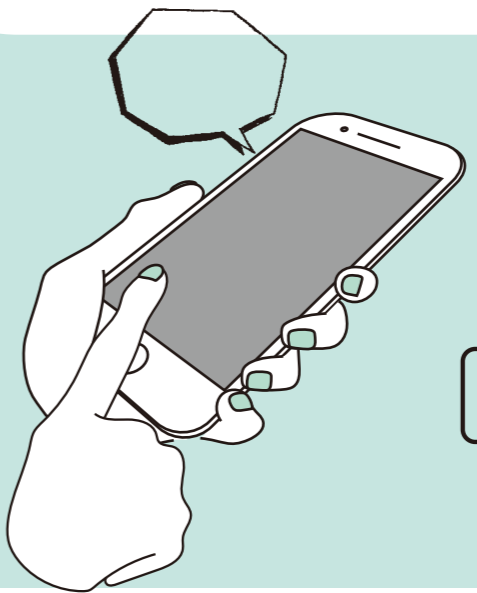
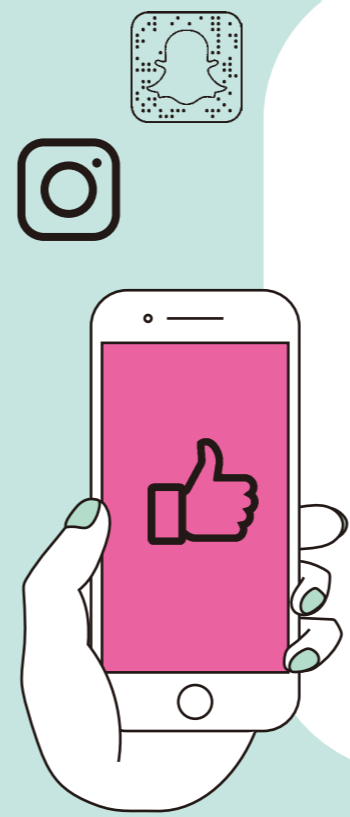
2010年、Twitterで自分が現在どこにいるか、何をしているかなどを書き込む際、文末につけて使う言葉「～なう」が一年の世相を反映した言葉を選ぶ「ユーザー新語・流行語大賞」に選ばれました。さらに、2017年にもInstagramに投稿した見栄えの良い写真を意味する「インスタ映え」が選ばれるなど、ソーシャルネットワーキングサービス(以下SNS)が身近なものとなって久しくなりました。

実際に「2017年度SNS利用動向に関する調査結果」(ICT総研調べ)によると、日本国内におけるSNSの利用者は年々増加しており、2018年末には7,485万人となる見込みです。日本の人口は約1億2647万人なので、半数以上がSNSを利用していると言えます。

しかし、SNSのことをよく知らない、使ったことがない人にとっては、「SNSを使って、見知らぬ相手と話す感覚がよく分からない」「そもそもSNSでどうやって知り合っているの?」「相手とのやり取りが見えない」と思うこともあるのではないのでしょうか。今回の特集では、「なるほど!」「こういう風にSNSを使っているのか」と知ってもらえるように、実際に活発にSNSを使っている若者に話を聞き、その実態を覗いてみました。



LINE



## 若者4人インタビューしました。

- どんなSNSを使っていますか?
- フォローは何人くらい?
- SNSごとにどんな使い方をしていますか?
- 知らない人とつながるのってどう思っていますか?

**とっちーさん (高1・女性)**

LINE	118名
Instagram	243名(本アカウント) 7名(裏アカウント)
	54名(空の写真だけ載せるアカウント)
	85名(趣味アカウント)
Snapchat	1名 <sup>(※)</sup>

Snapchatは留学生とやりとりするのに、「やってないの?」と言われてダウンロードしただけなので、その人しかやりとりはないですね。

私は見知らぬ人に相談はしないかも。経緯を説明するのが大変だし。友だちや先生には会ったときに話すほうがいいと思うし、そのときでいいかなと思う。

短文でのやりとりが多いですね。長文は大人とやりとりするときくらい。それもあってちゃんと話すとか大変だな、と思う。

LINEは雑談や部活の話し合い、遊んだときとかの写真を送るによく使う。あとLINE通話もよく使うかな。Instagramは誕生日おめでとうメッセージとか。なので、知らない人との関わりはほぼないですね。

いきなりLINE交換しようって言われると、ちょっと抵抗があって、InstagramやTwitterなら全然いいんだけど。Instagramのいいところは、日常とかを投稿するので、イベントとかで知り合っただけの人でも繋がれるところ。反面、LINEはやりとりしないと意味ないし。

※snapchatとは、通称「スナチャ」と呼ばれ、メッセージや写真を送り合うことができるアプリです。ただし送ったメッセージが一定時間経つと消えてしまうという特徴があります。

**ゲンガーさん (予備校生・男性)**

LINE	169名
Twitter	4名(友だち関係) 120名(友だち関係)
	1,600名(ゲーム関係)
	415名(イラスト関係)
スタディプラス	0名 <sup>(※)</sup>

主に勉強状況や日常会話ですね。友だちや親とのやり取りが多い。

自分の中ではLINEでのやり取りはしないようにしています。文字が残るのが嫌で。直接、親や先生、友だちに会うか、電話して相談します。

知らない人とかかわりはTwitterではあります。でもやっぱりLINEではやらないです。そもそも知らない人とLINE交換は嫌。なんとなく。理由はわかりません。

※スタディプラスは、勉強の進捗状況を記入し管理するアプリです。勉強の記録を共有することでユーザー同士励ましあうなどコミュニケーションをとることもできます。

**テキサスギャンブラー山村さん (高3・男性)**

LINE	90名
Twitter	32名

LINEやったら事務的なことや、個人的に「貸しているCD返して」とかです。Twitterは「誰か教えて」って感じで、LINEやとつまらんことでも返事せなあかんかったりすると自分も面倒くさいので。Twitterやったら「誰か返してもいい」と思う人が返してくれるやろって感じで。テストの時間割とか聞くことが多いですかね。

知らない人との関わりはないです。あんまり話すイメージがつかないというか。

**まっきーさん (高1・女性)**

LINE	277名
Instagram	567名(本アカウント) 64名(裏アカウント)
	9名(空の写真だけ載せるアカウント)
Facebook	0名
Twitter	262名

LINEは遊びに行く約束や雑談、授業のグループワークの計画、自主活動の話し合い(頻繁に会えないため)、過去問を送り合うのに使います。

大人の人にはLINEで話したりするけど、友だちだったらLINE通話を使うかな。文字に残すとスクリーンショット撮られて拡散される可能性があるし。そういう意味で文字を残しても安心できる大人にしか相談しない。もし友だちに送ったとしても、文章をあとで消してね、と伝えるかな。

LINE入れてない人とか先生とか3人くらいは、メッセージでやり取りしてる。

そう思うとLINEで繋がる範囲は、近畿圏内くらいのイメージ(笑)。Instagramは学校内で、逆にTwitterは日本中の人と繋がっている。LINEでやりとりすることは事務的なアポイントをとることとか。なので、実際にあった人で今後もつながりそうな人。自分が幹事しているグループLINEでなにか発信するときとかは、先に友だちに「反応(返信)してー」って言っとく(笑)。誰か「幹事さんありがとう」って返信すると他の子もしてくれたりしますね。既読スルーはグループLINEやったら普通やけどやっぱりちょっと悲しい。

Facebookは、意外と高校生の間では使っている人が少ないようです。私は登録だけして誰ともつながっていません。

いかがでしたか。今回インタビューをする前は、SNSで見知らぬ人と気軽にやりとりをする中で悩みを相談しているのではないかと考えていました。

ですが、話を聞いてみると、誰と繋がるのか、どのような内容を話すのかはSNSによって上手に使い分けていました。

LINEでのやりとりは友だちや知り合いが多く、Twitterよりも相手との距離感の近さが出ているように感じます。そのため事務的な連絡やアポイントなどに使われたり、相談につながったりすることもあります。

一方で、文字を残してしまうとスクリーンショットを撮られて、周りに拡散される恐れがあるというプライバシーの面を気にしている声もありました。このことから、悩みはSNSでは相談せず、直接会って話したり電話したりするなど慎重な面もあるようです。

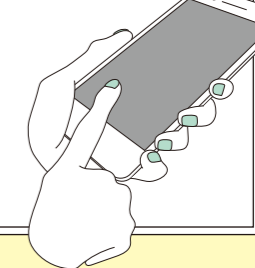
TwitterやInstagramでは、LINEと少しちがう距離感で、日常的に会わない人へ誕生日メッセージを作成したり、テスト範囲をクラスメイトに聞いたりすることに使っています。また、共通の趣味や関心から見知らぬ人も出会う入口にもなっており、そこで関係性ができると深い話をすることもあるようです。

今回取材した内容は、若者全体のほんの一部に過ぎません。ですが、さまざまなことに気を遣いながらも、関係を築いていくという本質的な人との関わりは変わらずに、1つのコミュニケーションツールとしてSNSが確立している様子を伺い知ることができました。

この記事を通して、SNSを利用する若者への関心をもつきっかけになれば幸いです。

(子ども若者総合相談窓口／子ども・若者支援室特集担当)

ネットで知り合った人と親交を深めている人にインタビューをしてみました



1

ネットで人と知り合うきっかけは？

私の場合は主にTwitterがきっかけです。ハッシュタグ(#)を付けると自分の好きな物で繋がりがやすくなるので、日常で接点のない人とも知り合うことができます。そこで仲良くなっていくとダイレクトメッセージ※1を使うようになって、そこでLINEのIDを交換することもありました。LINEは1対1でずっと喋れますし、写真もすぐ添付できるので日常のことをすぐに伝えやすいんですね。Twitterよりも相手との心理的距離が近い気がします。

※1 ダイレクトメッセージ:1対1で会話ができ、周りからやり取りの見えないTwitter内のコンテンツ。

2

相手とどんなやりとりをしていますか？

LINEは「晩御飯こんなの食べてん」とか、日常的な話がほとんどです。Twitterから仲良くなった人で、LINEで連絡を取っている北海道在住の人がいるんですが、この間の北海道地震で相手の地域で電気が止まってしまって。スマホの充電がなくなるから「電源切るわー」という事態になっていて、心配なのでとりあえずモバイルバッテリーを送ったんです。年賀状のやりとりで住所も教えてもらっていたので、必要な物資を送りました。その後、お礼に銘菓の羊羹を送っていただきました(笑)。

3

会った事がない人でも仲良くなれるのはなぜ？

私は相手のリアルな背景を知らないことに抵抗はそれほどないんです。ネットだから他人に個人的な現実の話をしたくない人もいると思うので、自分からも聞けなかったです。匿名だからこそ、仲良くなれたのかも。逆に、いきなり「会おう」と言ってくる人がいたら困ったと思います。Twitterでは日常的なつぶやきを見られますし、あと、Skypeのビデオ通話を通して、相手の顔を知ることもあるので、会ったことのない人とも気軽に話をする事ができるし、お互いを知っていくこともできると思っています。

4

SNSをしていてよかったことは？

何かあったとき、私の話を聞いてくれたり、私のことを心配してくれることです。人とのつながりがあると実感しますし、お互いにいろんなことが相談できる関係性になっていったことも嬉しいですね。最初から「相談したい」とって連絡が来るのではなく、知り合ってたんだ仲良くなってから、「実はな……」って自分や家族の話をはじめました。そういった関係性になれたのは、お互いにちょっとしたことでメッセージを送り合うとか、そういった日常の積み重ねがあったからだと思います。



なのさん(女性)

## ひより×みほ×あかり×さち×あこの5人による 座談会

**ひより** 意外と住民票の登録の問題などで行けていない人がいるんだね。

**みほ** 前回は行ったけど、その前は行ってないという人もいたよね。

**あかり** 不在者投票※1を使わない人もいた。送料がかかるらしいもんね。

**さち** まず不在者投票についても詳しく知らなかったな。

**あこ** たとえ国や警察に選挙について聞かれても、言わなくていい「秘密選挙」という制度が印象的だったね。

**あかり** どうぞ選挙の情報を得たらいかにという質問について、新聞とかもあるけどTwitterとかまとめサイトというのが今の時代だからこそ活用される方法なのかな。

**さち** 政党自身がアカウントをもってSNS発信していることを初めて知った。

**あかり** 新聞って難しいイメージがあるけど、もらった資料の中では、わかりやすいのもあった。自分たちもチェックしないとね。

**ひより** 情報を集めるのも大切だけど、選挙の流れとかやり方を知るのも大切だよな。

**あかり** 学生選挙サポーターの方たちがしている、小学生に向けての出前授業で実際の投票箱を使ったりしているのを知って、やってみたいと思った。

**さち** 小学生に授業したときに質問タイムで大學生がひるむくらいの高度な質問をしていただけで驚いた。私たちも18歳選挙権について考えているけれど、小学生の時からそのような授業を受けている子たちがいるのなら、将来、もっと投票率が上がるようになるのかな？

**あかり** 高校でも現代社会がなくなると、「公共」※2という授業が始まるらしいよ。どんな授業なんだろう？ 選挙のことなどが扱われたときに、私たちの日常にどのようの変化が起こるんだろう。

**みほ** ネット投票について考えてみたけど、最近SNSなどのアンケート機能で間違っって押しちやうこもあるし、手軽すぎて適当な判断になってしまつのかな。実際に投票に行くことで、自分の一票の責任を感じられるし、正確な判断をできるようにするのかな。

**ひより** 高校でも現代社会がなくなると、「公共」※2という授業が始まるらしいよ。どんな授業なんだろう？ 選挙のことなどが扱われたときに、私たちの日常にどのようの変化が起こるんだろう。

**みほ** ネット投票について考えてみたけど、最近SNSなどのアンケート機能で間違っって押しちやうこもあるし、手軽すぎて適当な判断になってしまつのかな。実際に投票に行くことで、自分の一票の責任を感じられるし、正確な判断をできるようにするのかな。

終えてみて思ったこと。

**あかり** 住民票を移すってそんなに大変なことなの？ もっと簡単だったら投票率も上がると思うな。

**みほ** 日本の投票率に比べて、海外はどうかな？ アメリカを調べてみたらあんまり高くなかったよ。

**ひより** 罰金がある国もあるって聞いた。その国の若者の投票率は80%くらいらしいよ。※3

**さち** 教科書で見た！

**みほ** 日本の投票日は日曜日だよな。仕事があつて行けない人もいるから、もっと期日前投票※4を知ってもらえたらなと思つた。

**さち** 新たに学んだことがたくさんあったな。政治について知らないことはたくさんあったけど、意外と情報交換とかの決まりはなかったんだね。

**あこ** 選挙って思っているほど難しくないのかもね。

**みほ** もっと気軽にできるね。

# 高校生が「18歳選挙権」について考える

高校生が作ったページ

今回のテーマは18歳選挙権。高校生の私たちにとってリアルなテーマではありますが、あまり深く考えたことはありませんでした。知る必要があると思い、右京区学生選挙サポーターのみなさんにインタビューをしました。



### 1 サポーターのみなさんは投票には行かれましたか？

- 高校生の時は行ったけれど、大学入学後はまだ行っていません。
- 今回は住民票を移行していなかったため行きませんでした。
- 住民票の関係で投票用紙を取り寄せてもらい投票しましたが、送料がかりました。
- 私の周りの大学生は投票に行かない人が多いです。住民票移行の問題もありますが、そもそも選挙自体についてあまり知らないという人もいます。

### 2 実際に誰に投票したかなど、選挙に関する話って話してもいいんですか？

「秘密選挙」という言葉がありますが、それは投票内容の非公開が保証されている選挙のことをいいます。だから、友だち同士で選挙に関する話を話してはいけないというルールはありません。むしろ、意見交換は情報収集のツールの一つだと思います。多様な考えや主張がある中で、一個人の意見を聞いて、自分の中でどう消化するかが大切だと思います。

### 3 投票に関して、候補者の情報をどこで得たら良いですか？

テレビや新聞、インターネットや街頭演説から情報を得ることができます。また、今では政党自体がSNSのアカウントを持ち、情報を公開しているため、そこを見たり、政党に関するまとめサイトなどを見るとわかりやすいです。ただ、インターネットの全ての情報を鵜呑みにせず、正しい情報を自分で見極めることが大切です。

### 4 「ネット投票」はなぜ実現されないのですか？

インターネットで投票ができるようになると、手軽になる一方で、万が一、情報が漏れると個人情報特定される恐れがあり、それは「秘密選挙」に反します。また、一人一票という決まりを本当に守れるのか、という問題もあり、実現は難しいのが現状です。

### 5 高校生にも公約がわかりやすいものになるためには、私たちはどうすべきですか？

候補者が高校生にレベルを合わせるべきだとは思いますが、候補者は実際に選挙に来てくれる人を対象に公約を書きます。高校生にもわかりやすくしてもらうためには、君たち高校生も政治に関心を示しているという姿勢を見せることも必要かもしれません。

### 6 候補者の公約を読んで、難しいと思ったのですが……どうすればわかりやすくなりますか？

直接候補者に会える機会があれば、わかりやすくしてほしいと思います。ですが、公約は対面では伝えられないので、正式な言葉で伝える必要があり、堅い言葉になるのだと思います。街頭演説ではわかりやすい言葉で演説されていたり、学校などで行われる個人演説会では直接話ができたりするのでわかりやすいかもしれません。

## 今回取材させていただいた… 右京区学生選挙サポーターさんの活動

右京区学生選挙サポーターは右京区にゆかりのある大学に通う学生が集まり、右京区選挙管理委員会と連携して活動しています。現在は花園大学、立命館大学、京都学園大学、京都光華女子大学の有志の学生が加入しています。右京区内にある小学校などでの出前授業をはじめ、様々なイベントなどで選挙に関する啓発活動を行っています。



劇や模擬投票による選挙の授業を小学校や特別支援学校で行います。



学生選挙サポーターの活動内容の説明と意見交換をしています。



活動を通して選挙の大切さを伝えています。

※1 不在者投票……仕事や用事で名簿登録地以外の市区町村に滞在して選挙日に投票できない場合、選挙日の前に、滞在先の選挙管理委員会において不在者投票をすることができます。(京都府情報館ホームページより)  
 ※2 公共……2022年の高等学校学習指導要領改訂に伴う、「公民科」の必修科目。選挙権年齢引き下げをふまえ、社会参画に必要な力を育てる新科目です。  
 ※3 「選挙ドットコム」より。http://go2senkyo.com/articles/2016/04/06/16782.html  
 ※4 期日前投票……選挙日に仕事や用事があると見込まれる方などを対象に、選挙日の前でも選挙日と同じように、投票用紙を直接投票箱に入れ、投票できる制度です。(京都府情報館ホームページより)



田中 大喜さん 23歳  
商社 営業 入社1年目

終身雇用制度が当たり前でなくなり、働き方が大きく変化している今日。一人ひとりで見ると、よくある話かもしれせん。でも複数回を並べてみると、そのはたらく姿から現代の若者のすがたがあぶり出されるのではないか。「はたらく」から若者の今を見つめます。

シリーズ  
**はたらく若者**  
第3回

あなたの職業は？

住宅設備の建材を取り扱う商社で営業をしています。  
社員全体で4,600人ちょっとの規模の会社で、家を建てるための部材を全部取り扱っています。

人の暮らしに直結しているものではないかと期待して選びました。ITやサービスなど目に見えないものと違って、「これ売ってます」と言える仕事で、性に合っています。

新人で覚えることが沢山あり、怒られながらも徐々に商品知識などをつけていっているところです。

どんな働き方をしていますか？

働き方改革を推奨している会社で今年度から残業は最大でも20時まで。超えるとパソコンの電源が落ちます。

ただ、仕事量は多いです。残業代もきっちり出るんですけどね。

もちろん終われば帰りますが、先輩が忙しいのに、「手伝います」と言わずに帰れない雰囲気は感じちゃいます。考え方によつてはどれだけ残っても20時までなので、気持ち的には見通しが持っていますね。

会社での人間関係は？

10人程度の事業所で、30代半ば〜後半が中心。一つ上の先輩でも5つ離れています。

恵まれてない訳でもないの言い方は難しいですが……。

あなたにとって「働く」とは？

暇つぶしですかね(笑)。冗談ですが、まったく的外れではなく、もし働かずにお金を得られるとしても、働くことを選んでいると思います。見栄っ張りで、良いと見せたいタイプ。成果を上げて、報酬を得て、自分を奮い立たせるための手段なのかなと。

そんなに仕事好きではないし、自己実現の手段とまでは言いたくない部分もあって、「お金を得る」評価を得るといのが大切なのだと思います。

今は何もありませんから状態。早く芽を出して、花を咲かせたい。そのために前向きでいきたいです。



困った時に相談できる人はいますか？  
同期が全国に約200人いるので、研修とかで会うと相談したりします。入社して最初の1週間に合宿があり、仲良くなりました。人に弱みを見せるのが得意なタイプじゃないので、悩みの相談とかはできずに愚痴を吐くくらいになってしまいますが、抱え込むところがあるので、上司、先輩には絶対に言えないですね。

何のために働いていますか？

何よりもお金ですね。もっともっと稼いで稼いで稼ぎまくりたいです！  
単純に自分が遊びたいというのがありますが、ささいな目標は、今まであった人全員に焼肉をおごることに。

食べたいものならなんでもいいですが、人はお金があるところに集まってくると思うし、集まってもらせる人にはご馳走したいと思えます。稼いだ分は使いたいですし、大盤振る舞いできる男になりたいですね。

あとは、結婚したいし、出来れば子どもも授かりたいです。子どもには、好きなことをさせてあげられ

るような働き方がしたいですね。親がお金を出すタイプではなく、子どもの頃、野球道具でも何でも一番安いものしか買ってもらえなかったです。大学進学も奨学金を借りて、バイトして行きました。友人や彼女の家庭の話も聞いてみると、大学の学費もそうだし、割と何でも親が出す、うちと違う家庭があることを知りました。その話を聞いて「いいな」と思いました。

それから自分が親になった時にはそれなりにお金を持って子どもを育てたいと思うようになりました。

また、就職を機に独り暮らしを始めた。これまではお金がなかったからできませんでしたが、家族との関係がかんばしくなかったのと、自立したい気持ちがあったので。父と母もあまり仲が良い方ではなくて、家にお金を入れない、帰つてこないイメージが強く残っています。食事などの家事全般はほぼおちゃんがしてくれていました。独り暮らしでは掃除、洗濯はもちろんで、飯も割と自分で作っています。快適で楽しいし、生きていくという感じが。

かといって、自分の親に何も出してもらえないわけではないです。親は親の考えがあったのだらうって



歳の離れた人とボランティアで関わっていたこともあり、誰とでも関われると思っていたけど、仕事と違って、合う合わないがはっきりしてきました。共通の話題が無く、うまく話せなかったり、盛り上がりがないところについていけなかったりしました。  
積極的にいこうとしていたら、「何もわかってないのに返事だけは良い、安請け合いでするやつ」として干されかけました。思い上がりが激しかったのかなと思います。苦手な人もやっていかないといいことを社会人として実感しています。  
ただ、怒られても前向きな気持ちを持っておくことを心掛けています。ミスして怒られるとしゃべるけど、心を折られないように、細々と図太く生きていきたいです。そして時間が経てば「成り上がってる」「上り上がり……」と羨ましくはないな。生きていくのは難しい。

## TOPICS

# 京都市ユースサービス協会の 記念日づくり

「おめでとうー！」

誕生日、結婚記念日、創立記念日……様々な記念日がありますが、今年の京都市ユースサービス協会は記念日づくし。

京都市ユースサービス協会としては、2018年3月に30周年を迎え、1年を通じて『30周年記念事業』を実施しています。7月25日(水)には協会設立30周年記念式典・パーティーを開き、関係の皆さまや協会職員あわせて約120名の方にご出席いただいたほか、京都市長をはじめ多くの方からお祝いメッセージをいただきました。

また勤労青少年ホーム(※)(愛称:青年の家)時代から数え、青少年活動センターでは、山科40周年、南50周年をはじめ、事業としても『演劇ビギナーズユニット』25周年などの節目を迎えました。

今回はそんな記念日をご紹介するとともに、40年、50年という長きにわたってご愛顧いただき、記念すべき日を迎えた山科青少年活動センター、南青少年活動センターから「これまで、いま、これから」をご紹介します。

## 山科青少年活動センター 40周年 (1978年8月2日~) 所長 宮川知子



40周年を迎えた山科青少年活動センター(愛称:「やませい」)。

山科区内7カ所の中学校等にご協力いただき、中学1年生全員にクリアファイルと施設リーフレットを毎年配布している長年の実績もあり、山科区内の中高生が多く利用しています。

やませいのテーマは、「青少年の課題解決につながる仕組みを地域社会と協働でつくる」。地域の中で若者が役割を担う「場づくり」や、若者が困ったり悩んだりした時に地域の資源(ヒト・団体・機関・情報ほか)と繋がることのできるための「機会づくり」を、地域の方々とともに協力しながら行っています。

ここ数年の取り組みとして、2015年から地域通貨「へる」事業を行っています。10代の若者が地域活動で役割を担い、活動の対価として区内の協力店舗や、やませいで使うことができる地域通貨を発行しています。活動の機会や協力してくださる「へる協力店」「へるパートナー」も徐々に増えています。

また、2016年からは「ごども食堂」を実施しています。その翌年には山科区内のごども食堂や関心のある地域住民が連携した「まちのちやば台ネットワーク山科」を組織し、情報・ノウハウ・資源の共有等もしています。

今年8月には、利用者の皆さまに「40周年」を迎えることができた感謝



「やませいフェスタ」(2018)

の気持ちを伝えるため、「お誕生日月間」として多くのイベントを実施しました。8月2日の開所日にちなみ、「ハニー(82)トースト」を毎日50円で食べることができる催しや、特製バッグが当たるクイズ、ケーキをつくって40周年を祝う企画、毎週火曜日のカフェでは若者のリクエストを詰め込んだ「山科プレート」を提供するなどして、とても盛り上がりました! 開所以来、多大なご支援をいただいている運営協力会でも40周年を記念した取り組みをすすめています。

これからも若者にとって安心できる居場所が多くあること、若者が地域の一員として過ごすことができること、地域で若者の成長を支えられる基盤をつくっていくことを目指します。

## 南青少年活動センター 50周年 (1968年~) 所長 横江美佐子



「第一回文化祭」

南青少年活動センターは、勤労青少年ホーム「南青年の家」として開所し、当時の建物そのままに50周年を迎えました。勤労青少年ホームは、高度経済成長期、「金の卵」と呼ばれた中学卒業後に地方から都会に集団就職でやってきた若年労働者のための余暇活動の施設です。故郷を離れ、知らない土地で生活をはじめた15歳の若者にとって、同世代の仲間と出会い、スポーツや書道、写真などを楽しむ時間がどれだけ貴重であり、かれらの生活を支える場であったかは当時のニュースレターや写真から読み取れます。

2001年には広く中高生・大学生までもが利用できる「青少年活動センター」となりました。南青少年活動センターは、「若者の居場所づくり」をテーマに取り組み、今までいろんな若者たちがやってきました。定時制高校が始まる前に「息つく生徒、自習室を利用する受験生、不登校やフリーターの若者やボランティア希望の大学生、バイクの暴走や喫煙など問題行動を繰り返す10代、若いママ、パパ……」。そして、中高生たちはセンターのことを今も「青年」と呼びます。私たちがいくら、青少年活動センターを名乗ろうとも……。

1968年から「ただけの若者が利用しているのでは」南青年の家の初期の利用者は、現在の若者の祖父母世代です。「うちの孫、お邪魔してい



「ホームカミングデー」(2018)

るみたいや」と教えてくださる近所の方や、「おばあちゃんとおじいちゃん」青年(で知り合った)「おかんも青年」使ってたんやって」「お兄ちゃんが(青年)はおもうって言った」と話す若者もいます。そう、青年は、50年前と今をつなぐ言葉なのです。

11月17日(土)には、「青年」に「青少年活動センター」にもう一度帰る一日として「ホームカミングデー」を実施しました。

私たちが、若者の成長を支え50年が過ぎました。これから5年、10年後もこの場であつて若者だった人たちとともに若者の育ちの場を作っていきたい。ホームカミングデーを終えて、そんな思いをあらたにしました。

- ### 周年スケジュール
- 市内7青年の家の特化事業開始から20年(1998年)
  - 京都市より南・伏見・山科青年の家(現青少年活動センター)3カ所の運営を受託して20年(1998年)
  - 条例改正によって高校生から利用できるようになって20年(1998年)
  - 「演劇ビギナーズユニット」25周年(1993年)
  - 京都市ユースサービス協会になって30年(1988年)
  - 山科青年の家開所から40年(1978年)
  - 南青年の家開所から50年(1968年)
  - 第1回グループリーダーセミナー開講から50年(1968年)

※勤労青少年ホーム……働く若者の福祉の増進を目的とした施設。各種の相談や、余暇の充実を図るため、クラブ活動やレクリエーション活動なども行われている。

# ユースかわら版

広報紙に関する  
「意見や感想は  
こちらへ」



## 『北「コミまつり」』を 開催します！

12月16日(日)10時〜16時、北青少年活動センターにて年に一度のお祭り「北「コミまつり」」を行います。当日は模擬店やステージ発表、体験コーナーなど楽しい企画が盛りだくさん！ 普段、センターで活動している若者と地域で活動している人と一緒に開催するお祭りを盛り上げます。みなさまのご来場をお待ちしています。



## 『からだではなそうオー プンデー』へようこそ！

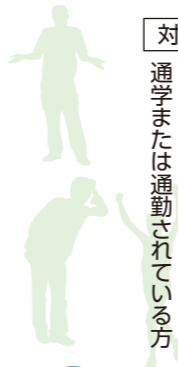
このプログラムは、学校卒業後の余暇活動場所が少ないという支援学校や保護者の声から、東山青少年活動センターで平成18年より始まり、今年で13年目を迎えます。言葉だけではなく様々な身体表現などを通じて「コミュニケーション」を楽しめる空間作りを目指して活動しています。

通常は登録制の為、より多くの方に活動を知っていただく機会として実施します。色々な人との出会いを通して自分自身にとって新しい発見があるかもしれません。ぜひご参加ください。

**日時** 12月8日(土) 1月26日(土)  
いずれも13時30分〜15時30分

**料金** 各回1,000円

**対象** 京都市に在住、  
通学または通勤されている方



## 同志社大学拉麺研究会



「自分たちでラーメンをつくりたい」という熱意を大切に、自分たちのラーメンを追究している同志社大学拉麺研究会のみなさんは、南青少年活動センターの料理室を使い、こだわりの味を深めています。ラーメンの食べ歩きと試作の両輪で研鑽を続けており、濃厚な鶏白湯スープからコシのある麺まですべて自家製！

メインイベントは、毎年11月に行われる2度の学園祭への出店です。現代表にとっては味の集大成を見せるときであり、新代表にとってはデビューのとき！

来年は、設立6年目を迎え、「当初からの熱意を受け継ぎつつも、しっかりとこれからの方向性を打ち出す大事な節目の年になる」と新代表は語ってくれました。

## 思春期の子育てに悩む 親の会 『ユースワーカーと話そう』

学童クラブOB保護者の有志を中心に、子育てに悩まれる親御さん同士の集いの場が10月20日(土)に開かれ、ゲストスピーカーとして子ども、若者支援室より向井支援コーディネーターが参加してきました。

当協会の取り組みを紹介しながら、京都市内における若者支援の状況を共有した後は、子どもとの関わりで不安なこと、想いを参加者間で聴きあいました。お茶菓子を用意、終始和やかな雰囲気の中、参加者同士でお互いを受け止め合う素敵な空気が流れました。「不安を話しても大丈夫な場」「少し元気になる帰る場」はどの世代にも必要であること、また、子どもを支える立場となる親世代へのアプローチの大切さを改めて感じる貴重な機会でした。



## 海外研修 報告

## Transformative Youth Work International Conference

(南青少年活動センター 横江美佐子)

ヨーロッパでは国を超えて、ユースワークについて議論し、高めようという動きがあります。その一つ「EU5か国ユースワーク調査/The Impact of Youth Work in Europe: A Study of Five European Countries」の報告会を兼ねた学会が9月にイギリス南西部プリマスで行われ、私が所属する研究会の一員として出席しました。

この5か国調査は、若者にとってユースワーク、特にユニバーサルなワーク(誰もが自由に利用できるサービス)がどのように役に立っているかを明らかにすることを目指したものです。内容は、イギリス、フィン

ランドなどのユースセンター利用者へのインタビュー調査とそれに対する分析と考察をまとめたものです。若者が大人に成長していく過程でユースワークがどう役立ったかは、数値で測れないものです。しかし、成果を表すことは、今や世界共通の流れであり、日本のユースワークの現場でも日々の活動を「見える化」するための議論が続いています。

学会では、ヨーロッパに加え、アフリカや北米、オセアニア地域のユースワーカー、研究者250名ほどの参加者が活発な議論を展開していました。私は、この議論に加わることで、私たちが現場で抱える課題は、私たちだけの課題でないこと、ユースワークの価値を明らかにすることは、グローバルな取り組みであることを実感しました。



5か国調査の報告書は、次のURLからダウンロードできます。  
<https://www.humak.fi/julkaisut/the-impact-of-youth-work-in-europe-a-study-of-five-european-countries/>

## IECイベント 『ふしみんなの多国籍料理教室』



伏見青少年活動センターのプログラム「インターナショナルイベントクラブ(IEC)」では、日本人と外国人・外国にルーツをもつ方がいっしょにイベントを企画制作・実施することを通して、両者ももちろんのこと、プログラム参加者とも国際交流、異文化理解を深めていきます。

9月の料理教室では、調理準備にバタバタしましたが、みんなで協力して完成した料理を前に思わず笑顔。フロアチアのはちみつクッキー、ベトナムのあんかけスープ、中国のチンジャオロース、そして日本のおにぎり！ あれこれおしゃべりしながら舌鼓を打ちました。

## 『なかせいオープンデー』 開催しました！

中京青少年活動センターを利用する青少年グループの活動発表や交流を目的とした「なかせいオープンデー」を9月23日(日)に行い、バンドやダンスの発表、ロビーでの流しそうめんなど大盛り上がり1日となりました！ また活動発表だけでなく、青少年主催のワークショップや交流タイムを設けました。参加グループからは「普段話さないグループの活動を知れてよかった」などの感想が寄せられ、お互いの活動やセンターを知っていただくきっかけとなりました。



発行  
公益財団法人 京都市ユースサービス協会  
〒604-8147  
京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町262  
京都市中京青少年活動センター内  
TEL: 075-213-3681 FAX: 075-231-1231  
E-mail: office@ys-kyoto.org  
HP: <http://www.ys-kyoto.org>  
印刷: 株式会社谷印刷所 デザイン: 株式会社オム